

イースターメッセージ

「敗者の復活」

マタイの福音書から主イエス・キリストの復活を読み解く

(マタイによる福音書 28章 1～10節、16～20節)

堤 隆 (日本キリスト教会札幌北一条教会牧師)

「否定工作」(マタイ 27: 62～66) と「隠蔽」(マタイ 28: 11～15) の中で主イエス・キリストの復活は起こりました。疑いと無視にも関わらずに。復活の朝、二人のマリアは「墓を見に行つた」。復活への疑念・否定はいつでもどこにでもあります。現代科学からすれば迷信ですし、死んでも生まれ変わるとかわたしの心の中に生き続けるでは幻想・ファンタジーです。いずれも信仰になりません。

二人のマリアはアリマタヤのヨセフが語った「新しいこと」を確かめに行きます。するとそこに地震が起こります。自然現象ではなく、「主の天使」が降って墓の石を転がしたからでした。クリスマスに父ヨセフに御子の誕生を告げたのと同じ「主の天使」が墓にも来ました。神様が地上に介入されました。すると墓にいた番兵たちは震え上がり死人のようになりましたが、一方マリアたちは「恐れることはない。十字架につけられたイエスをさがしているのだろうが、ここにはおられない。『なぜなら』(原文にある)、復活なされたのだ」と天使から告げられました。空の墓を見て信じよと言うものではありません。「かねて言われていたとおり」に信じるのだと申します。

天使は「行って弟子たちに～告げなさい」と命じます。十字架の時、恐れをなして主を見捨てて逃げ去った弟子たちに、です。復活の主は裏切り者をさえ復活させてくださる。使命を受けて、二人のマリアも復活します。「恐れながらも～知らせるために走って行った。」みことばを忘れていたことを恐れながらも、使命を与えられて弟子へと復活させられました。復活の主から「喜びなさい」(「おはよう」の直訳) と声をかけられ、マリアたちは「拝礼した」(「ひれ伏した」の直訳)。お懐かしやとしがみついたのでありません。主も「わたしの兄弟たちに～言いなさい」と命じられます。ご自分を裏切った者たちを「わたしの兄弟」と呼ばれます。どんなに失敗しようとも、復活させて「わたしの兄弟」にしようとなさいます。もはや「弟子」ではなく「兄弟」です。神の御子の

兄弟です。

知らせを受けて弟子たちはガリラヤへ行き山に登りました。主が説教をされた山、変貌を遂げられた山、御心が示された「山」に登り、「イエスに会い、ひれ伏した」。マリアたちと同じように甦りの主を拝礼しました。「しかし、疑う者もいた」。疑う、の語源は「2」です。こちらか、あちらかの2つの間で迷うからです。私たちも、信じていても迷います。困難や悩みを抱えて地上に暮らせば、失敗もしますし、敗れることもあります。

それだからこそ、主はそんな者たちに近づいて「すべて～すべて～」と繰り返し声をかけられます。「一切の権能」＝すべての権能、「すべての民」、「すべて守るように」、「いつも」＝すべての日々と。主はすべてのすべてになられました。コロナ禍にあっても、このお方のもとにすべてをお任せし安んじて日々の暮らしを続けてまいりたいと思います。